

第2回 篠岡地区の学校を考える会委員 議事要旨

日 時	令和7年5月30日（金） 19時 ～ 20時52分
場 所	小牧市東部市民センター 講堂
出席者	【委 員】 別紙のとおり 【事務局】 中川 宣芳 教育長 矢本 博士 教育部長 岩本 淳 教育部次長 丸藤 卓也 教育総務課長 瀬尾 宗利 学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹 長屋 孔之 教育総務課学校再編推進係長 丹羽 勇人 教育総務課学校再編推進係主査 稲垣 翔太 教育総務課学校再編推進係主任
欠席者	稲垣委員、相馬委員、松井委員、三好委員、余語委員
傍聴者	59名
配布資料	資料1 第1回「学校を考える会」で提出された質問と回答 資料2 第1回「学校を考える会」で提出された意見や提案等 資料3 篠岡地区学校再編計画（案） ～しのおか学園構想～

内 容

1 開会 2 議題 （1）第1回会議の振り返り 事務局より資料1、2に基づき、説明 （2）篠岡地区学校再編計画（案）について 事務局より資料3に基づき、説明を行い、学校毎にグループで意見交換を行った 意見交換後、各グループから議論の内容について以下のような発表があった 【篠岡小学校グループ】からの発表 □再編への期待 ・クラス数の適正化など、再編の目的や必要性は理解でき、再編時期についても納得できる ・クラスが増えると人間関係に幅ができ、学習も学び合いが進みやすく、社会性の獲得等のメリットがある一方で、再編によって新しい環境に置かれる子どもたち、特に中学生
--

への影響は大きい、という心配の声もあり、そうした部分へのケアが大事

- ・再編の時期を第1期と第2期に分けたのはとてもいい案なので、第2期の再編では「こんな素晴らしい、夢や魅力のある学校になる」ということを再編前から発信されたい

□疑問点

- ・篠岡小学校の115年の歴史が再編によって途絶えることがないよう、特に親子三代、四代と篠岡小学校に通い、卒業生であることを誇りに思っておられるような地域住民の方々の心情への配慮や理解を得ていく手法

□その他

- ・再編後のPTAや地域協議会への対応
- ・校章や校歌、帽子などの学校用具をどうするか、第2期を見越して予め統一したものを作っておいてもいい
- ・事前の交流に関する取り組み方について、「交流会」や「遠足」は取り組みやすいが、「野外学習」や「修学旅行」は規模や内容的に難しい部分があるのでは

【光ヶ丘小学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・クラス替えが今より更に楽しみになり、各種行事も今よりさらに盛り上がる
- ・子どもたちの負担を出来るだけ減らしながら、安全な学習環境の確保や多様な考えに触れられる機会を作っていくことが大事
- ・光ヶ丘小は受け入れる側の学校になるが、再編後の子どもたちがアウェイ感を感じることがないように、また人数が増えても、子どもたち一人ひとりに目が行き届くように工夫してほしい
- ・2段階での再編により、篠岡小・中学校に新しい校舎を建てる時間的な余裕ができるのはとても良い考えである

□疑問点

- ・登下校、通学について、スクールバスが確保できるのか
- ・小学校は下校時刻が学年で異なるが、どのように運用されるのか
- ・現在の光ヶ丘小学校は車と人の導線が同じになっていることから、児童の安全確保のためにも、車と人の導線を分けるような工事や校舎内、学校設備の改修も必要

□その他

- ・災害時の避難所として、体育館はもちろん、校舎についても避難所利用ができるよう、コストをかけてでも保存すべき
- ・令和9年度の再編は学校側の対応は間に合うのか、早急な準備が必要

【大城小学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・クラス替えができるようになり、人との新たなつながりが持てる他、部活やクラブ活動

において選択肢が増え、活発な活動が期待できる

- ・ 2小2中が隣接しているため、小中一貫校の検討を早めても良い
- ・ 地域の自慢になるような、誇りになるような学校づくりをしてほしい
- ・ 通学の安全確保として、自転車の通学帯整備や小学生にとって負担の少ない距離でのスクールバスの設定とそれによるパトロールボランティアの方の負担軽減
- ・ 不登校の子どもが増えているため、再編を機に、そうした子どもたちも行ってみたくなくなるような学校、子どもたちにとって過ごしやすい学校にしてほしい

□疑問点

- ・ 本校は2つに分かれることになるが、再編前の事前交流について、どのように対応するのか、交流行事の企画から日程調整等の方法も含めて今後の課題
- ・ 児童クラブや防災訓練等、学校を拠点とした活動への対応
- ・ 令和9年度に再編ということは、令和8年度の新入生は1年で離れ離れになるケースもあるため、そういった子どもたちのケアも考えていく必要がある

【陶小学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・ しのおか学園構想の中身、特に段階的な再編という点はすばらしく、よく考えられている
- ・ 陶小学校はすでに全学年が単学級で、誰一人クラス替えのワクワク感を味わったことがなく、男女比のバランスも含め、子どもたちが置かれている状況を考えると、この構想を早急に実現してほしい

□疑問点

- ・ この構想を1年10ヶ月で実現するには課題もあるが、子どもたちのことを想うならば、先送りすることはできないとも考える

□その他

- ・ 今日においても、陶小学校から進学の際、環境の違いに戸惑う子や、保護者からの心配の声もあったため、子どもたちの心のケアにはより丁寧な対応が必要
- ・ 大人だけで決めることなく、途中途中、子どもたちの想いや考えを受け止める機会もあるべき
- ・ 陶小学校の創立から41年の歴史の中で培われてきた伝統や多くの人の想いもただ消えていくのではなく、何を残し、何を引き継いでいくのかという視点も大事にしてほしい

【桃ヶ丘小学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・ 桃ヶ丘小学校に再編される陶小学校は三世代の家庭も多いが、桃ヶ丘小は様々な地域から集まってきており、子どもたちも多国籍と風土が違いますが、そうした子どもたちが交じり合うことで今まで気がつかなかった価値観や多様性を学べるいい機会になる

- ・各校が地域の方とのつながりを大切にしている中で、再編によってそうしたつながりが切れないように、上手く集約できるという

□疑問点

- ・再編後の桃ヶ丘小学校は新しい学校として1年目を迎えるのか、今年で創立50年になるがこれを引き継いでいくのかで、校章や校歌の扱いも変わってくる
- ・また光ヶ丘小の意見同様、アウェイ感を感じる子どもたちがでないよう、学校名も「しのおか学園東小学校」など、新しい名称のもと、新たな校歌、校章を作り、そのまま第2期にスライドしてもいいのではないか
- ・短い準備期間でどこまで対応できるかがネック
- ・男女比のバランスの説明があったが、再編後の男女比がどうなるのかについても説明がほしい

□その他

- ・避難施設としての学校をどう残していくか
- ・桃花台の世帯数を増やすことにつながるような、まちづくりの工夫も考えていくべき
- ・桃ヶ丘小学校は篠岡では2番目に古い小学校なので、再編前に改修等することも考えてほしい
- ・しのおか学園全体として、AI教育も含め、これからの時代に即した魅力的で特色ある学校づくりを検討していけるとよい

【桃陵中学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・生徒数が増えるということは人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上につながる
- ・行事等が活気あるものになる
- ・再編後の新しい学校のイメージを早期に共有するとともに、新時代に相応しい、時代に先行する先進的な学校をつくり、児童生徒や働く教師が誇りを持てるような学校にしていきたい
- ・校則、行事、時間割、ICTの活用やPTAなどを含めた様々な団体の運営、連携等において、先進的な学校であってほしいと思う一方で、今の良さも活かしていきたい
- ・学校再編に関し、様々な憶測が飛んでいるようで、子どもたちも不安に感じているため、子どもたちと保護者には丁寧に説明していくことが大事
- ・その他にも段階的な再編への賛意や子どもたちの心のケア、教員数の確保、家庭環境へのサポートなどが出された

□疑問点

- ・学校建設に6年以上を要するのであれば、第2期を見据え、今から考えていく必要があるのでは
- ・スクールバスについて、運行スケジュールや停車場所によっては登校時間が今より早く

なることや、利用料への懸念

- ・避難場所として体育館のみならず、校舎の利活用の有無を明らかにしてほしい
- ・陶小学校区をはじめ、地域住民への説明が必要
- ・桃ヶ丘小学校の農園をはじめ、地域活動についても事前の交流があるとよい
- ・再編案について、多数決では決めないということだったが、誰がどう決めるのか

【光ヶ丘中学校グループ】からの発表

□再編への期待

- ・今日の説明にあった「学園」の良さ、必要性が子どもたちや保護者に伝わるとよい
- ・再編の方向性は良いが、いわゆる小規模校と言われていた学校規模が急に大きくなることに対する子どもたちや保護者の不安感への対応が必要
- ・例として、保護者からすると「学校規模が大きくなることで先生の目が届かなくなる」という懸念があるかもしれない。実際には学校規模の拡大に伴い、教員の数も増えると思うので、杞憂かもしれないが、そうした不安感へ寄り添う姿勢が必要

□疑問点

- ・通学の距離、安全性について、スクールバスの導入が提示されたが、バス利用の可否をどこで線引きするのか、柔軟な対応をしてもらえるのか
- ・中学生の受験に対する不安感として、これまでテスト等で学年一桁だった生徒が、再編後、人数が増えることで、相対的に順位が下がったように感じてしまい、自信を失くしてしまわないか、など多感な子どもたちの心情への配慮が必要

□その他

- ・未就学児の保護者への意見をどのように拾っていくか
- ・これまでの地域との関わりを令和9年度の第1期までにどのように繋げていくか

【篠岡中学校グループ】からの発表

□再編への期待、疑問点

- ・今の中学1年生が3年生のタイミングで再編、他の学校に通うことになるため、その年を迎えるまでに、行事や文化祭、体育祭など、どこでどのように交流の機会をもっていけばいいか
- ・子どもたちのみならず、教員の交流という視点を持って、合同授業などの交流も必要
- ・篠岡小も篠岡中も古い学校であり、いつまでもそのまま残しておくのは不安
- ・これまで1小1中という環境で育ってきた子どもたちが、新しい環境に適應できるような心のケアが大事

【会長】

- ・長時間にわたり、熱心に意見交換をいただき、感謝申し上げます。
- ・皆さんの発表内容を踏まえ、中川教育長から総括をいただきたい。

【中川教育長】

- ・委員の皆さまの発表内容を聞かせていただき、3つの意見に大分して受け止めさせていただいた。
- ・1つ目が「令和9年度の再編に向けてどのように進めていくのか」、「早急に、精力的に取り組んでほしい」という意見、また、2つ目は通学手段について、今後、十分な検討を加えてほしいという意見。
- ・そして何よりも環境が変わる子どもたちの心のケアについては、しっかりとやってほしいという意見が最も大きかった声であったと感じている。
- ・こうした部分については、市教育委員会において十分に検討させていただく。
- ・なお、しのおか学園構想における学校名はあくまでも「仮称」であり、その学校に編入されるという意味合いではないことをこの会議の共通認識とさせていただきたい
- ・いずれにしても、人口減少・少子高齢化が急速に進む現代社会においては、学校再編というのはこの篠岡地区に限った話ではなく、先日の全国の都市教育長会議の皆さまとも情報共有する中で喫緊の課題であるとの認識を強めてきたところである。
- ・引き続き、篠岡地区のみならず、小牧市全体の子どもたちのために貴重なご意見を頂き、考えを共有しながら、この学校再編という課題に取り組んでまいりたい。

【会長】

- ・その他、全体を通して、質問や意見などはあるか。

【委員】

- ・本日の会議資料は外部の人と共有していいものか。

【事務局】

- ・本日の資料は、会議後、市ホームページでの公開を予定しており、外部の方と共有していただくことは問題ない。

【委員】

- ・未就学児の保護者から「自分たちに情報が来ない」との声を聞いたが、ケーブルテレビ等で中継するなどの手法は考えられないか。

【事務局】

- ・この学校再編にとって、幅広い情報発信というのは最も重要な事項の1つと考えており、これまでも機をとらえて、市ホームページやSNS、広報などで情報発信を行ってきた。
- ・未就学児の保護者も含め、様々な市民の方に学校再編を知っていただきたく、委員ご提案のケーブルテレビ等も含め、今後も多様な媒体を持って情報発信を続けてまいりたい。

【会長】

- ・他に無いようであれば、これでいったん区切らせていただく。
- ・以上をもって、本日の議題は全部終了したので、進行を事務局にお返しする。